

2018 春闘収入動向

3月1日、春闘交渉「収入動向」を行いました。以下、報告します。

まず会社より、営業成績 29 年度 1 月を説明。

「収入動向」

コンテナは、積合せ貨物が関東地区から九州地区にかけての発送が好調となった。一方、紙・パルプは需要減少、雪害に伴う運休、マシン故障等で大きく減送したまた民間流通米や玉葱の出荷が落ち込んだ農産品・青果物、一部工場の設備不具合等の影響を受けた化学工業品が低調となった。更には中旬から下旬にかけての相次ぐ雪害の影響を受け、コンテナ全体では対計画△220 百万円となった。

車扱は、石油が気温低下に伴って特に灯油の需要が増加したことに加え、配送圏の見直しにより鉄道へのシフトが進んだことから、好調に推移した。車扱全体では対計画+47 百万円となった。コンテナ・車扱合計では、対計画△173 百万円 (98,2%) となった。

「コンテナ」

積合せ貨物が東海道・山陽線の沿線における中長距離帯において、ドライバー不足により鉄道利用が増加し、対計画+103 百万円となった。一方、農産品・青果物は全国的に民間流通米輸送落ち込んだほか、北海道産の玉葱も雪害による運休で低調に推移し、対計画△112 百万円となった。紙・パルプは需要減少に加え、雪害による運休・マシン故障等もあり、対計画△96 百万円となった。また化学工業品が一部工場の設備不具合等の影響を受け対計画△45 百万円となったほか、化学薬品が△19 百万円、エコ関連物資が△16 百万円、家電・情報機器が△8 百万円等、雪害の影響もあり計画を下回った。その結果、コンテナ全体では△220 百万円 (97.5) となった。

「車扱」

車扱は、石油が気温低下に伴って特に灯油の需要が増加したことに加え配送圏の見直しにより鉄道へのシフトが進んだことから好調に推移し、車扱全体では+47 百万円 (103.8%) となった。

「コンテナ」

積合せ貨物が東海道・山陽線の沿線における中長距離帯において、ドライバー不足により鉄道利用が増加し、対前年+147百万円となった。食料工業品はビールが東北・関西管内等で好調となり、砂糖も29年産のビートが豊作であったため、対前年+33百万円となった。また、自動車部品は東海・九州地区間での輸送が順調に推移し、対前年+16百万円となった。

一方、紙・パルプは需要減少に加え、雪害による運休・マシン故障等もあり、特に新潟・東北地区発で大きく減送となり、対前年△59百万円となった。農産品・青果物は全国的に民間流通米輸送落ち込んだほか、北海道産の玉葱も雪害による運休で低調に推移し、対前年△53百万円となった。その結果、コンテナ全体では+116百万円（101.4%）となった。

「車扱」

車扱は、石油が気温低下に伴って特に灯油の需要が増加したことに加え配送圏の見直しにより鉄道へのシフトが進んだことから好調に推移し、車扱全体では+102百万円（108.8%）となった。

対前年+218百万円（102,3%）

「輸送量動向」

今月は、中旬から下旬にかけての大寒波の影響で、新潟、関東、北海道など各地で大雪となり、月全体で高速貨350本、専貨4本が運休した（前年は、高速貨207本、専貨12本が運休）。

コンテナは、積合せ貨物が東海道・山陽線の沿線における中長距離帯において、ドライバー不足により鉄道利用が増加した。自動車部品は東海・九州地区間での輸送が順調に推移し食料工業品はビールが東北・関西管内等で好調となり、砂糖も29年産のビートが豊作であったため、前年を上回った。

一方、紙・パルプは需要減少に加え、雪害による運休・マシン故障等もあり、特に新潟・東北地区発で大きく減送となった。農産品・青果物は全国的に民間流通米輸送が落ち込んだほか、北海道産の玉葱も雪害による運休で低調に推移した。また一部工場の設備不具合等の影響を受けた化学工業品が前年を下回り、コンテナ全体では前年比99.8%となった。

車扱は、石油が気温低下に伴って特に灯油の需要が増加したことに加え配送圏の見直しにより鉄道へのシフトが進んだことから好調に推移した。その結果、車扱全体では前年比105.5%となった。コンテナ・車扱の合計では、前年比101.8%となった。

組合・29年度中間決算で、連結通期見通し91億とみていたが、どうなりそうか。

また、29年度決算で、鉄道事業黒字は達成できそうか。

会社・収入に関して言えば、1月中旬以降の雪害の影響を受け、2月も大きく減収となり、対計画で△7億円という状況である。残り1ヶ月、収入面での挽回に努力していく。

組合・トラックドライバー不足が深刻で、鉄道輸送のニーズが高まっていると、よく耳にするが、実際に鉄道へ荷物は流れてきているのか。

会社・前年と比較すると、特に積み合せ貨物の荷量は増えており、鉄道へのシフトの動きはあると認識している。

組合・ドライバー不足で、引越し荷物が対応できず、引越し難民が出ると言われているが、荷物が鉄道へ流れてきているのか。

会社・年度末に向けて引越し荷物が増えてくる時期である。取りこぼしの無いように努め、収入面での挽回を図りたい。

組合・大雪等での輸送障害が多く発生している中でも、社員は安全安定輸送に取り組んでいる。趣旨説明でも話したが、今後、労働者不足の時代に突入し、優秀な人材確保は困難になる。労働条件を底上げし、働きやすい貨物会社をアピールしなければならない。次回交渉の会社の考えでは、納得の出来る内容を示してほしい。

会社・収入動向、足元の状況は先の説明のとおりであるが、会社としては、計画の達成に向けて最大限努力している所である。経営状況や社員の頑張り、苦勞を総合的に勘案して最終的な回答を考えていきたい。

以上
